



「見たり、聞いたり、探ったり」No.314

通算 No.465

青木行雄

「東京めじろ会」(35回目)の開催について (大分県の酒蔵・酒・焼酎を楽しむ会) 「カザフスタン共和国イエルラン大使」を迎えて

「東京めじろ会」とは、めじろという鳥は大分県の県鳥に指定された鳥で目の周りが白く、梅の花とめじろは相性がいいが、ついでに大分県の花は、「ぶんご梅」の花である。

こんな事から、大分県の酒を関東で楽しむ会を「東京めじろ会」と名付けた。

現在大分県には酒蔵が酒・焼酎を含めて組合員は37蔵あり、この東京めじろ会では、年2回、春と秋に蔵を変えて東京で開催している。

大分県では、県人会等ふるさとの同志が集う会が盛んで、県人会は100年近くなり、2年後100年祭を記念して盛大に開催する。

この「東京めじろ会」もおかげ様で2026年3月7日開催で35回目(18年)を迎えた。

毎回、酒蔵を変え、来賓には有名人をお招きし、参加者においしい酒・焼酎を提供、マンネリ化をさける為にイベント等も工夫して、苦労を重ねている。

今回の主賓は「カザフスタン共和国」、中央アジア、在日カザフスタン、イエルラン・パウダルベック・コジャタエフ駐日大使をお招きし、会場を盛り上げた。

日本語が上手で、何十年か前、日本へ来日した際、大分にホームステイした事があると挨拶の中で明かし、こんな事から知り合いとなり交友を重ねている。

カザフスタンを少々記すと、



「東京めじろ会」の会場風景。



大分県国東半島、大分空港近くの蔵元、萱島酒造(株)の萱島進社長の挨拶の様子。



主賓の中央アジア、カザフスタン共和国、イエラン大使の挨拶。



イエラン、カザフスタン共和国大使と奥様・娘さん。日本の酒文化を勉強に来られた。



中央アジア関係に詳しい赤尾さんが特別参加で、民族衣装で歌を披露する。



イエラン大使に挨拶する皆様。熱唱する、赤尾氏。

中央アジアのリーダー的存在で、日本の約7倍という広大な領土を持つ世界最大の内陸国である。豊富な石油、天然資源を背景に経済成長を続け、最新のデータでは1人当たりGDPが周辺諸国を凌駕している。多民族が共生する文化を持ち、近年はデジタル拠点化を推進するカザフスタンである。

広さは世界第9位、人口は約2千万人である。

大使と奥様と娘さんの3人、日本の酒文化の雰囲気味わう勉強をしませんかとお誘いした。

今回は35回の節目なので参加者全員に焼酎1本お土産として進呈した。

8人掛の丸テーブルには「西の関」の1升ビン1本(1,800ml)と焼酎900mlと720mlの2本を配置し、抽選会もあり、特別イベントには赤尾氏のカンツォーネの歌と大分出身の大衆演劇の速水映人さんの舞踊と歌で楽しんでもらった。

大分県の酒と焼酎を東京で発信するという事が「東京めじろ会」が本分であるが、今大分県酒蔵共同組合には蔵元数が37軒ある。その酒蔵を1社ずつ案内して今回で35回目になった。

今回の酒蔵は^{かやしま}萱島酒造株式会社で代表銘柄の酒は「西の関」である。大分県国東町にあって、大分空港から車で10分たらずの所にあり、日本国内でも金賞を取った程の名酒であり、大変評判の良い、美味しい名酒である。



梅沢富美男劇団から芸人として独立した「速水映人」さん。歌と男役、女役を演じる。



観客を沸かせる、女役を演じる「速水映人」さん。

「萱島酒造」のパンフを記して見ると

①「西の関」について

「萱島酒造」は、明治6年(1873年)酒造りを始めました。代表銘柄「西の関」は、明治20年代に2代目米三郎が、西は西日本、関は横綱の意味で「西日本の代表酒」になりたいとの大きな望みと努力を心に誓って命名したものです。明治の末より大正初期に建てられた酒蔵は文化庁の文化財にも登録され今なお現役の酒蔵として働いています。

②「西の関」がめざすもの

「地酒」とは、中央の主産地に対する地方の酒という意味で使われることがありますが、それだけの意味ではありません。地方でとれる農産物や魚介類、それらを使った色々な料理に合やす酒、すなわち、その地方の味覚に合う酒造りを実践していくのが地酒の存在意義です。また、「今年の酒は甘いじゃないか」「少し辛いじゃないか」など、様々なご意見を参考にしながら、地元の人に愛されるお酒造りを続けてきました。伝承の手法、匠の技、蔵人の情熱、そして国東半島の大自然と豊かな食。この全てがひとつとなって、萱島酒造のお酒は造られます。

西の関はこれからもぶれることなく地域に寄り添ったお酒造りを続けていきます。

酒蔵が思いを込めて造った酒を私達は関東で「東京めじろ会」として多くの皆様に大分で造られた一蔵、一蔵の酒・焼酎を伝承し、ふるさとの思いをこめて毎回、手弁当で「東京めじろ会」の歌まで作り頑張っている。

「東京めじろ会の歌」の歌詞を記して見ると、

作詞 青木行雄
作曲 葉月はじめ
編曲 松本周爾
歌 港 アケミ

1. 明るく伸びる ふるさとの
仲間同志の 心意気
酒蔵の意志 東京で
集いし度に 増える顔
ああ ああ 東京 東京めじろ会

2. 空澄み渡る ふるさとの
心触れあう 国なまり
味と風味は 日本一
皆で築こう 大分の
ああ ああ 東京 東京めじろ会

3. 希望に燃ゆる ふるさとの
明日を夢見て 語り合う
良き人を知る 尊さに
大分の酒 きょうもまた
ああ ああ 東京 東京めじろ会

こんな事でふるさとを思い、愛し、望郷の思いをこめて幹事一同頑張っている。

記 令和8年3月15日